

やさしさを花束にして

当会は、平成7年に病院新築移転を機会に誕生しました。思い起こしますと、患者さん・職員・ボランティアが協働し、ここまでに充実してまいりました。総務部、広報部、事業部、研修部、園芸部と組織が定着し、各ボランティアがチーム活動の大切さを考えながら日々、患者さんへ直接・間接的に活動しています。その活動の一部をご紹介します。

- A. 外来活動：車椅子移送、聴力・視力障害患者への対応、外国人患者通訳・案内
- B. 図書整理
- C. 院内ディスプレイ（花、季節に合った展示）
- D. ジェントル・ガーデンや院内観葉植物の管理
- E. 入院病棟活動：入院案内、紙芝居、クリスマス会、緩和ケアふれあい・散歩同行
- F. イベントの企画運営：クリスマスの飾りつけ、ジェントルフェスティバル、ホスピタル・スノーふれあいフェティバルなど
- G. 協力ボランティアとの連携
- H. 自主活動・勉強会の企画：手話、折り紙を折る会、アートセラピー、花とあそぶ会など
- I. 広報活動：会報発行、ホームページ、ビデオ・写真撮影
- J. 活動シフト表作成、会議資料作成など

■ボランティアの会 やさしさ・ジェントル



ボランティア
コーディネータ
向井 和恵

現在、正会員135名をはじめ体験者、協力者が多岐にわたって年間400名活動しています。当院の春、夏、秋の庭園は花園のように美しく花々が咲きほこり、冬は心温まる300個のスノーキャンドルが、皆さんの心を癒しています。医療の場の地域に根ざした環境整備の評価により環境大臣賞をいただきました。

来秋は発足15周年を迎えようとしております。今後も、患者さんに信頼、愛されるやさしい活動に専念してまいりたいと思います。

～やさしさを花束にして～
皆様のご支援ご協力よろしくお祈りします。



表紙の言葉

この写真は、自称・セミプロ写真家の私が、5年前に旭岳を撮影したものです。朝、一番でロープウェイに乗り、よいシチュエーションを1時間くらいかけて探し、雲の美しさが引き立つ瞬間を捉えたことを記憶しています。撮影のための登山では、10キロ以上の機材を持参するので、大変さもありますが、写真仲間や弟子と共に楽しんでいます。

小児科
部長
福島 直樹



編集後記

広報誌「かざぐるま」のタイトルネームは、院内公募にて決定しました。今号は、応募があった職員が所属する「医事課」「腎臓移植外科」「ボランティア」の記事を掲載いたしました。以降も「顔のみえる連携」をめざして各部署を紹介させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

編集・発行 市立札幌病院 地域連携センター運営委員会
(事務局：札幌市病院局 地域連携センター)
〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目
電話 代表 (011) 726-2211 F A X (011) 726-7928



さっぽろ市
03-T01-09-384
21-3-87